

佳作

心でかんじる大せつなごと

神奈川県 湘南白百合学園小学校二年 白井 智香

八月のおぼんがすぎた夏休みに、父とはは、いもうととわたし、そして、あい犬のジェシカと山中にある「ワフ」というしせつに行きました。そこで、ジェシカのきょうだい犬四とうとも合りゆうしました。ワフは、とても広く林のようなどころがあったり、犬のしょうがいぶつきょうそうが出来るようなところがあったり、大人もおよげるような大きいプールもあったり、まるで犬のゆうえんちのようでした。

どうしてワフに行ったかというジェシカのきょうだい犬たちと一しよにあそぶためです。このしせつでは、とても広いばしょをじゆうにリードもつけずにあそびます。わたしがなげたおもちゃをとってきたり、知らない犬たちもおいかけっこをしたり、犬たちはとてもたのしそうにみんななかよくあそん

でいました。そとであそんだあとは、犬たちの体をひやすためにしつ内のプールへいどうしました。きょうだい犬たちは、とても上手におよぎます。しかし、ジェシカはじめてのプールです。とてもこわがりしつぽをまるめてわたしのそばからはなれませんでした。ライフジャケットをきせたり、父がだっこし一しよに入ったりしました。それを見ていたきょうだい犬たちがいつの間にかジェシカのそばにいました。まるで、「一しよに入ろう」とゆう気づいているようでした。だからわたしも、一生けんめいおうえんしました。わたしも、いもうとにおうえんしてもらえてプールにとびこみが出るようになったからです。

三十分くらいたったころ、ジェシカもきょうだい犬たちと一しよならば、あさいところに入れるようになりしました。すると、きょうだい犬たちがおもちゃをくわえてきたり、とびこみを一しよにしようといきおいをつけてはしり出したりしていました。そのとき、ジェシカが前足をすべらせてプールにおちてしまいました。おぼれそうになりながら、ひっしにおよいでなんとか足のつくところまでくることになりました。するとすぐに、きょうだい犬たちがや

ってきて口をなめたり、耳をなめたり、体をピツタリとくっつけてまるで、「大じょうぶ」と言っているようでした。それからジエシカもきょうだい犬たちのあとをおうようにとびこんだり、およいだり、水にうくおもちゃをとってきたり本とうにたのしいうにしていきました。わたしも、じ分がはじめてクロールが出きたときと同じぐらいうれしく思いました。

わたしたちは、いつも言ばであい手に気もちをつたえます。犬たちは、ほえたりもしますが、きちんとかい手を見てよう子をかんさつしたり、においかいだり口をなめたりして気もちをりかいしているように見えました。そして、どんなときもジエシカからはなれず、そばにいてくれた犬たちのすがたに、心からかんだうしました。言ばだけではなく、心で気もちをかんじ、りかいすることの大せつさを教えてもらえたすてきな夏休みとなりました。